

第3回 幌延町地域公共交通活性化協議会 会議記録

日時：令和6年3月1日（金）13：30～15：00

場所：幌延町役場2階大会議室

1. 開会

これまでの協議会審議内容に基づき「幌延町地域公共交通計画（素案）」をまとめたので、審議いただき計画書（素案）とする。

(1) これまでの協議会について（山下事務員から説明）

○幌延町地域公共交通計画の全体構成（資料1）

計画全体構成のうち、これまでと今回の審議部分等を整理したもの。

○第2回協議会などにおける意見と回答（資料2）

第2回協議会における意見に対する考え方、整理を回答としてお示ししたもの。

- ・No. 1：地域間幹線系統路線としての維持についてどのようになっているか。JR宗谷本線の利用促進策についてどのように考えているか。
→関係機関や事業者等のホームページに掲載されているので参照いただきたい。
- ・No. 2：収支率や行政負担率の目標値の考え方について。
→計画素案本編P.60にてそれらの費用に関して比較できる目標値を設定した。
- ・No. 4、14：ライドシェアの導入検討について。
→前回の協議会において、まだ不確定要素が多く計画には今回盛り込まない方向と回答していたが、やはり地域交通の運転手不足が深刻化していく恐れがあるため、一種免許を有するドライバーの活用についても積極的に位置づけたいと考え、本編に盛り込むこととした。
- ・No. 5：高齢者の外出手段確保の必要性と表現方法について。
→本編P.57以降の方針2でその旨記載し表現方法を変更した。
- ・No. 6：運転免許自主返納者数と運転手の新規雇用者数等の目標設定について。
→返納を促進する取組みの回数を目標値としてP.62に記載。運転手の新規雇用者について、運転手の確保という観点から重要な指標であるため計画（案）の概要どおりとする。
- ・No. 7：スーパーが日曜日定休日やハイヤーの営業時間の変更に伴う影響について。
→ハイヤー運賃等助成制度対象者に限って見ると、スーパー利用に関しては6.1%程度の影響、ハイヤー事業所の営業時間短縮に関して平日、土曜で6.2%、日祝日では22.3%の影響であり、事業者の運転手確保が必要である。
- ・No. 8：豊富町や天塩町の情報収集も必要では？
→近隣自治体との連携も必要と考える。
- ・No. 10：まちの拠点について整合性を考慮しては？
→5章で整理する。
- ・No. 12：概要版もあった方がいいのではないかと？
→概要版を準備した。
- ・No. 13：むかわ町の自家用有償運送も参考にしているかどうか？
→問寒別ではボランティアを活用した運送を検討しているので参考とする。

2. 協議事項

(1) 幌延町地域公共交通計画（素案）について（シン技術コンサル榎原氏から説明）

（本編・実態調査編・概要版）

○資料3：本編（素案）

- ・1～4章については前回説明したので割愛し、計画として整理ご意見の反映をした部分を説明する。

(P.16：図 機能分担についての説明)

- ・幹線交通の部分で旭川と稚内を結ぶのを宗谷本線とした。
- ・広域交通は札幌と幌延を結ぶはぼろ号とした。
- ・幹線交通は広域地域間や生活圏交通を包括するものであり、その部分を分かりやすく表現した。

(P.45：図 スクールバス運行図)

- ・豊富町から高校生が使うスクールバスがあるとの情報提供があったので豊富町に確認したところ町で運行しており幌延町も5名利用しているとのことで記載した。

(P.53：4－2 バス輸送の確保)

- ・豊富町のスクールバスに関連した記載を（1）現状に追記した。
- ・スクールバスにより豊富幌延線の利用が分散していることを（2）問題点に追記した。

(P.57：（2）基本方針)

- ・高齢者等交通弱者への対応、交通拠点について整理し追加した。

(P.58：（3）公共交通の機能分担と性格・役割)

- ・16ページで説明したものと同様に追記訂正した。

(P.59：図 幌延町の公共交通体系)

- ・幹線交通について青で整理し地図と整合性を図った。

(P.62：④収支率、⑤行政負担額)

- ・それぞれの目標値について、ハイヤーをデマンド交通にすることでどれくらい効率化されるか、運行費用収支率、行政負担等を整理し追加した。

(P.64：①宗谷本線の維持・確保)

- ・幌延町に関連する記述を追記した。

(P.68：②豊富幌延線の維持・確保)

- ・豊富高校へのバス運行を追記した。

(P.72：①地域からのボランティアとしての参加に積極的な運転手の募集とライドシェアの検討)

- ・ライドシェアについて追記した。

(P.73：②モビリティマネジメント)

- ・交通事故を回避するための情報発信を行う。
- ・スクールバス混乗について知られていないため、交通手段総合マップなど作成。

(P.74：（1）計画の進行管理)

- ・計画の進行管理 R5～R10 の計画。

(P.75：（2）達成状況の評価)

- ・定量的な目標を設定した。

○資料4：実態調査編（素案）

- ・第1回協議会で説明済み。

○資料5：概要版

- ・計画全体の構成として整理したもの。
- ・課題を解決するための概要を整理した。

(2) 懇談

○委員

- ・スクールバスの一般混乗が可能である旨の情報周知は、各戸に配置されている告知端末を活用してはどうか。

ー山下事務局員

- ・教育委員会と連携して、可能かどうか検討する。

○オブザーバー

- ・運行しているスクールバス車両にマグネットを添付するなどして一般混乗が可能であること、路線（起点・経由・終点）を周知してはどうか。

ー山下事務局員

- ・運行上、安全に問題がないか確認の上、教育委員会と調整を図る。

○委員

- ・本編 P60 の「定量的な目標の設定」について、「留萌地域公共交通計画・宗谷地域公共交通計画と整合を図る」と記載があるが、具体的にどのように整合を図るのか。

ー山下事務局員

- ・留萌・宗谷両計画がどのように本計画に紐づけられるのか整理する。

- ・幌富バイパスは R5. 9. 21 に延伸して、天塩防災（国道 40 号）と接続しているので現況に合わせて修正してほしい。

ー山下事務局員

- ・道路網図を R5. 10. 1 現在とし、幌富バイパスを現況に合わせて修正する。

○委員

- ・本計画で乗継拠点は、JR 幌延駅と問寒別駅となっているが、町としては乗り継ぎ拠点は役場中心で考えている。それを踏まえて修正してほしい。

ー山下事務局員

- ・国の補助金を受けることを考えると幹線交通との位置づけが必要なため、JR 幌延駅をまちの拠点として、地域の拠点を結ぶイメージで考えている。
- ・町の方針と矛盾がないように、表現を修正し、内容を検討する。

○委員

- ・役場近くで沿岸バスと乗り継ぎ可能か。

ー山下事務局員

- ・乗継可能である。

- ・今回検討している幌延駅と問寒別駅をつなぐ路線について、国の支援を実情に応じて考えてほしい。

- ・不明点や補助など気になることがあれば、運輸支局へ相談してほしい。

- ・ライドシェアについて運輸支局で把握していることは以下のとおり。

- ▶ 持ち込みの自家用車を、自治体主体の自家用有償運送事業において住民ドライバーの車両を活用可能。
- ▶ 交通事業者の事業所など拠点拡大要件の緩和。
- ▶ 二種免許取得時の試験の簡素化。

ー山下事務局員

- ・ライドシェアについて、取り入れることができれば検討する。

他に意見はなく、今回の意見に対する修正などは事務局に一任するという事で合意した。

(3)今後のスケジュールについて（資料6）

- ・意見・提案については、3/6（水）までに協議会へ提出してほしい。
- ・3/8（金）からパブコメ開始予定。
- ・3/29（金）計画書確定予定。
- ・令和6年度：引き続き地域でどのように計画を実施していくかという段階に移り、運行に向けた計画策定、運行主体確立、地域デマンド体制整備、協力隊確保など進めていくので、引き続き委員の皆さまにご協力いただきたい。

(4)その他（質疑等）

○オブザーバー

- ・今回、行政の計画策定に初めて参加したが、現実的で先を見据えることができる計画になったと思う。

○オブザーバー

- ・各図面で方位の位置・方向が不一致のため、整合を図ってほしい。
- ー山下事務局員：見てわかるよう図面を工夫する。

○オブザーバー

- ・交通資源の有効活用という観点で、スクールバスの一般混乗を行うことはいいと思う。

○委員

- ・鉄道として、協力できることは力になりたい。

○委員

- ・新しい交通など積極的に協力したい。

○委員

- ・交通事業者の人員が不足すると、今回の計画もうまくいかないと思うので、うまくやりくりして取り組んでほしい。

○委員

- ・福祉有償運送においても人員不足が顕著で、事業に支障が出る可能性がある。

○委員

- ・宗谷管内でも人員不足や生活の足に困るといった状況だと聞いている。
- ・地域住民と知恵を出し合いながら、協力していきたい。

○委員

- ・政府ではライドシェアの推進検討が進んでいるが、安全第一で事故を起こさないことが一番大事だと考える。

- ・交通安全講話など警察として協力できることがあるので、声をかけてほしい。

○委員

- ・地域の課題に触れることができ、勉強になった。

○委員

- ・計画を策定して、国からの支援を受けられるようになるので、地域住民が生活しやすくなることを期待している。

○委員

- ・計画策定がスタートで、住民がどのような動きをするのか、需要の伸びを把握してほしい。
- ・それに応じて、拠点整備や動線整備を行うことが、外出促進・公共交通機関の利用促進につながると思う。
- ・人口3万人以下であれば交通空白地自家用有償運行事業が認められるので、あえてライドシェアの導入を検討しなくてもいいと思う。
- ・ライドシェアの導入に関して、「Uber」等のアプリに関しては気にしなくてよい。

○委員

- ・協議会で議論する意義は、住民が生活にするのに不便がないようにするためである。

3 閉会

(了)